

2022 年度第1回支部集会【九州・沖縄支部】

主催:公益社団法人日本語教育学会 共催:筑紫女学園大学

日時:2022年7月2日(土)10:00~17:00(受付開始:9:30) [本催しのポスターはこちら](#)

会場:筑紫女学園大学 8号館3階 (818-0192 福岡県太宰府市石坂2丁目12-1)

交通アクセス:<https://www.chikushi-u.ac.jp/access/>

※駐車場に限りがありますので、公共交通機関を利用してお越しください。

※当日、スクールバスの運行はありません。また、大宰府駅からのバスも1時間に1本程度です。五条駅か太宰府駅からの徒歩をおすすめいたします。なお、どちらの駅からも同じか五条駅が少し近いかというぐらいです。

※昼食は事前にご用意ください。当日、大学内のカフェテリア・コンビニ等が営業していません。

参加費:500円(マイページより事前参加登録時に支払い) 定員:80名

対象:日本語教育に関心のある方ならどなたでもご参加いただけます。

申込締切:6月30日(木)23:59(ただし、定員に達した場合は、締切日以前に締め切ります)

申込方法:[学会ウェブサイトのマイページ](#)から事前参加登録をお願いいたします。

事前参加登録について詳しくは、[こちら](#)をご覧ください。**当日参加はできません。**

問合せ先:公益社団法人日本語教育学会 支部活動委員会

E-mail:shibu@nkg.or.jp TEL:03-3262-4291(平日9~18時のみ)

◆支部集会日程◆

2022年7月2日(土) 会場:8号館3階(8302・8303・8304・8305教室)	
※会場にて株式会社凡人社による書籍展示販売も行います。	
9:30	受付開始(8302教室)
10:00-10:10	開会挨拶(8302教室)
10:15-12:30	講演(8302教室)
12:30-13:30	休憩(8302教室)
13:30-15:10	口頭発表(8302教室)
15:15-16:45	交流ひろば(8303・8304・8305教室)
16:50-17:00	閉会挨拶(8302教室)

◆コロナ感染対策について◆ ご来場の際は、必ずマスク着用をお願いします。また、当日37℃以上の発熱がある方、風邪の症状や強いだるさ、息苦しさがある方、身近に新型コロナウイルス感染症の患者や濃厚接触者がいる方、政府が入国制限措置を設けている国・地域から日本へ入国後、14日間経過していない方、その他、体調に不安がある方のご参加はご遠慮ください。

開会挨拶

【10:00-10:10／8302 教室】

講演

【10:15-12:30／8302 教室】

「内容言語統合型学習 (CLIL) 教育実践入門

—『日本語で PEACE』に基づいて—

講師：奥野由紀子氏(東京都立大学)

内容言語統合型学習 (CLIL) の基本的な理論の解説の後、『日本語で PEACE』のコンセプトに基づいた「食と環境」をテーマにした初中級の例と、「貧困問題」をテーマにした中上級の実践例をご紹介します。そして、どのようにコースを構成していくのか、どのように言語的な足場をかけるのか、履修者にどのような変化が見られるのか、などについて具体的にお示します。

CLIL について初めて知る方や、これから CLIL 実践を考えている方、CLIL 実践をしてみたいけれども不安がある方がたへの疑問にできるだけお答えできるような内容にしたいと思っています。

休憩

【12:30-13:30／8302 教室】

口頭発表

【13:30-15:10／8302 教室】

※本発表は査読審査を経た学会発表です。発表要旨は本プログラム p.4～、詳細は予稿集原稿をご覧ください。

① 13:30-14:00

学部留学生を対象とする日本語ライティング関連科目シラバスの特徴

池田 隆介(北九州市立大学)・山路 奈保子(九州工業大学)

② 14:05-14:35

大学生の日本語教師イメージ—ビジュアル・ナラティブによるフォーキイメージの探求—

水戸 貴久(別府溝部学園短期大学)

③ 14:40-15:10

知識構成型ジグソー法を用いた CBI の実践報告—「日本の国民食」をテーマとして—

小山 悟(九州大学)

交流ひろば

【15:15-16:45／8303・8304・8305 教室】

※「交流ひろば」は、日本語教育とその関連領域の話題についての参加者相互の情報共有および同じ興味や問題意識を持つ者同士のネットワーク作りを目的としています。審査を経た学会発表ではありません。「交流ひろば」への出展は、学会員・非会員に限らずどなたでも可能です。

① 言語文化習得を超えたオンライン交流プログラムの発展と可能性 【8303 教室】

鈴木 和子(米国・バーモント大学)

私たちは、日米大学間でのオンライン交流プログラムの研究をしているグループです。いろいろな現場で言語のみならず様々な交流をされている方やご興味のある方にお越しいただき、お互いの体験談や実践報告、また意見交換や情報共有を通して、言語文化習得を超えた交流の可能性や具体的な方法を探りたいと思っております。

② 日本語教育実習の充実のためにできること 【8304 教室】

石澤 徹(東京外国語大学)

教育実習のデザイン・運営においては、各機関でさまざまに工夫しておられることと思います。本出展では、出展者が担当している教育実習を事例として紹介します。コロナ禍での取り組み、協力機関との連携の在り方、担当教員の体制など、教育実習のさらなる充実のために参加者の皆さんと意見交換ができれば幸いです。

③ 日本語教育関係者のための防災研修室 【8305 教室】

前田 和則(崇城大学)

出展者は令和3(2021)年度文化庁事業「日本語教育人材の研修プログラム普及事業」として実施された、中堅日本語教師のための研修担当講師の育成研修内で日本語教育関係者向けの防災研修案を作成しました。本展示では日本語教育関係者の皆さんに防災研修案を見ていただき、実施に向けて意見交換をしたいと考えております。

閉会挨拶

【16:50-17:00／8302 教室】

[2022 年度第 1 回支部集会(筑紫女学園大学, 2022.7.2)口頭発表①]

学部留学生を対象とする日本語ライティング関連科目シラバスの特徴

池田 隆介, 山路 奈保子

留学生のアカデミックな学習教育環境を把握する活動の一環として、ライティングに関わる日本語教育科目シラバスの分析を行った。学部留学生対象の日本語教育科目で、ライティング技能養成を目的とする 115 科目のシラバスの「概要」「計画」を対象とする分析を通じ、次のような結果と示唆を得た。(1)多くの科目が「概要」において「論理的思考力」に言及しており、ライティングと論理的思考力との間に密接な関係があるとの認識がある。(2)「計画」には「引用」「段落」などの項目が目立ち、これらの諸要素の指導を通じ、「論理的思考力」養成につなげようとしているのではないかと推察される。(3)留学生対象科目と学部生全体対象科目とでは、ライティング関連科目シラバスの「概要」は類似している一方、「計画」には大きな差異がある。学部全体におけるコースデザインを見据えた上で、学部日本語教育科目に求められる役割を考えていかなければならない。

(池田—北九州市立大学, 山路—九州工業大学)

[2022 年度第 1 回支部集会(筑紫女学園大学, 2022.7.2)口頭発表②]

大学生の日本語教師イメージ —ビジュアル・ナラティブによるフォークイメージの探求—

水戸 貴久

本研究は、日本語教員養成課程を履修している大学生に共通する日本語教師の「フォークイメージ」(やまだ, 2010)を捉える研究である。本研究から、日本語教師の専門性の獲得という議論の手前にある「日本語教育」そのものに対する共通イメージを抽出することができると考えられる。それは、在日外国人が増加する日本社会において、市井の人々が外国人と向き合う際の態度や心構えにおいても新たな視点を得られるだろうと考えられる。

日本語教員養成課程の初回の授業において「イメージ描画法」によって収集した描画データを、描画のナラティブを有機的に結びつける分析方法である「異種むすび法」を用いて分析した。分析の結果、大学生がもつ日本語教師のイメージとして日本語の知識を「有する」や「教える」といった従来の専門性を表すイメージの他にも、「寄り添う」や「分かち合う」、「混ぜ合わせる」などのイメージがあることが分かった。

(別府溝部学園短期大学)

[2022 年度第 1 回支部集会(筑紫女学園大学, 2022.7.2)口頭発表③]

知識構成型ジグソー法を用いた CBI の実践報告
—「日本の国民食」をテーマとして—

小山 悟

本研究は、コンテンツベースの日本語授業(CBI)に知識構成型ジグソー法(三宅 2011)をベースにした「教え合い」と「話し合い」の活動を導入することによって、学生たちの批判的思考を促す新たな教授法を開発しようとするものである。調査は香港の高等教育機関で日本語を専攻する学生 12 名を対象にオンラインで行った。テーマは「日本の国民食」で、外国由来の一部の料理が国民食化した原因・理由について考えさせた。その際、過去の実践の反省点を踏まえ、ジグソー学習を 1 度きりで終わらせず、視点を変えて 3 度続けて行い、その合間に学生たちの思考を揺さぶる問いを投げかけるなどの工夫を行った。調査の結果、教え合いでは、できる限り日本語だけで説明しようとする姿勢や、相手の説明を正確に理解しようとする姿勢が伺えた。一方、話し合いではどのグループも最初は十分に深められていなかったが、回を重ねるごとに徐々に改善されていく様子が見てとれた。

(九州大学)

以上